保証書（持込修理）

本書は、本書記載内容（裏面記載）で、無料修理を行うことを、お約束するものです。
保証期間中に、正常なご使用状態で、故障が発生した場合には、本書をご提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

品番	SVE-89DW
S/No.	
お買い上げ年月日	保証期間 対象部分 機器本体（消耗部品は除く） お買い上げの日から 1年
お客様 お名前	様
お客様 住所	〒 TEL.( )
販売店 店名・住所	上欄に記入または捺印の無い場合は、必ず販売店様発行の領収書など、お買い上げの年月日、店名等を証明するものを、お貼りください。

無効

＜無料修理規定＞

1. 本書記載の保証期間内に、取扱説明書等の注意書に従った正常なご使用状態で故障した場合には、無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合には、機器本体及び本書をご持参、ご提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
3. ご転居ご贈答品などで本保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理がご依頼できない場合には、最寄りの弊社営業所・サービス部へご相談ください。
4. 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
   (イ)使用上の誤り、または不当な修理や改造による故障及び損傷
   (ロ)お買い上げ後の移動、落下等による故障及び損傷
   (ハ)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、指定外の使用電源(電圧、周波数)や異常電圧による故障及び損傷
   (ニ)特殊な条件下等、通常以外の使用による故障及び損傷
   (ホ)故障の原因が本製品以外にある場合
   (ヘ)本書のご提示がない場合
   (ト)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
   (チ)付属品や消耗品等の消耗による交換
   (リ)お客様のご要望により出張修理を行う場合の出張料金
5. 本書は、日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
6. 本書は再発行しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

故障内容記入欄

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または、最寄りの弊社営業所・サービス部にお問い合わせください。

ユピテル工業株式会社
〒108-0023　東京都港区芝浦4-12-33

※この印刷物は、環境にやさしい古紙100%の再生紙と大豆油インキを使用しています。
R100　PRINTED WITH SOY INK

6SS0841

Super Cat 安全運転を支えるテクノロジー

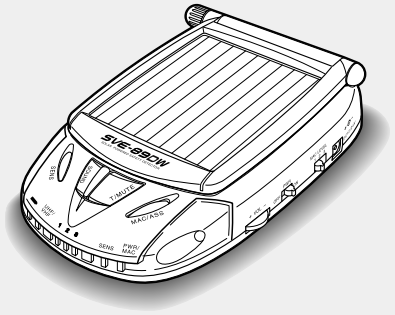
サンバイザー取付コードレスレーダー探知機

SVE-89DW

取扱説明書

2電源方式 12V/24V車対応

このたびは、スーパーキャットのレーダー探知機をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本機は、取締りレーダー波の存在を前もってお知らせする受信機です。



- **トリプル識別受信機能** ---------- ☛18ページ
  デジタル無線・取締無線・カーロケ無線を識別してお知らせします。
- **カーロケ遠近鳴分け＋圏外通知** ---------- ☛19ページ
- **EXTRA/エクストラ感度☆☆☆☆** ---------- ☛12ページ
- **iDSP** ---------- ☛16ページ
  統合的デジタル信号処理技術（ｉデジタル）により、超高精度識別を実現。
- **レーダーアラーム機能** ---------- ☛15ページ
- **自動制御機能/ローバッテリーアラーム** ---------- ☛7ページ

⚠注意

この説明書をよくお読みのうえ、安全運転のよきパートナーとして正しくお使いください。
なお、お読みになられたあとも、いつでも見られる場所に大切に保管してください。

初めてご使用になるときは、付属のシガープラグコードを使い、15時間（例 1日3時間で5日間）以上、使いながら充電してください。

目 次

はじめに
安全上のご注意 …… 2
各部の名称と働き …… 4
ご使用にあたって …… 5
電源について …… 6

取り付けかた
取り付けについて …… 8
ダッシュボードに取り付ける …… 8
サンバイザーに取り付ける …… 9
フロントガラスに取り付ける …… 10

使いかた
音量/警報音/受信感度を設定する …… 11
MACシステムの使いかた …… 13
ASS機能について …… 14
便利な機能について …… 15
レーダーアラーム機能について …… 15
iDSPについて …… 16
主な警報について …… 18
トリプル識別受信機能の使いかた …… 18

その他
取締りのミニ知識 …… 20
取締りレーダー波を受信しにくい場合 …… 21
仕様 …… 21
故障かな？と思ったら …… 22
アフターサービスについて …… 23
保証書 …… 裏表紙

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ **警告**：この表示は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

⚠ **注意**：この表示は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

絵表示について

⚠ この記号は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

🚫 この記号は、してはいけない「禁止」内容です。

❗ この記号は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

水をつけたり、水をかけない。また、ぬれた手で操作しない…火災や感電、故障の原因となります。

穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない…感電や故障の原因となります。

機器本体および付属品を改造しない…火災や感電、故障の原因となります。

運転中は絶対に操作しない…わき見運転は重大事故の原因となります。また、設定は停車中に、パーキングブレーキを確実にかけた状態で行ってください。

取り付けは、自動車の運転や視界の妨げにならない場所に取り付ける…誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

万一、破損した場合は、すぐに使用を中止する…そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

警報したときに慌ててブレーキをかけたりしない…走行中に急ブレーキをかけたりすると大変危険です。

バッテリーに直接接続しない…火災や感電、故障の原因となります。

サービスマン以外の人は、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない…感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。

医用電気機器の近くでは使用しない…植込み型心臓ペースメーカや、その他の医用電気機器に電波による影響を与える恐れがあります。

助手席エアバックの近くに取り付けたり、配線をしない…万一のとき動作したエアバックで本体等が飛ばされ、事故やケガの原因となります。また、シガープラグ使用時に配線が妨げとなり、エアバックが正常に動作しないことがあります。

シガープラグコード接続時

シガーライターソケットやシガープラグの汚れはよくふく…接触不良を起こして火災の原因となります。

シガーライターソケットは単独で使う…タコ足配線や分岐して接続すると、異常加熱や発火の原因となります。

⚠警告

シガープラグコード接続時

シガープラグは確実に差し込む…接触不良を起こして火災の原因となります。

ぬれた手でシガープラグの抜き差しをしない…火災や感電、故障の原因となります。

電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しない。また、電源コードが傷んだら使用しない…感電やショートによる発火の原因となります。

表示された電源電圧車以外では使用しない…火災や感電、故障の原因となります。また、ソケットの極性にご注意ください。本機はマイナスアース車専用です。

煙が出ている、変な臭いがするなど、異常な状態のまま使用しない…発火の恐れがあります。すぐにシガープラグを抜いて、販売店に修理をご依頼ください。

⚠注意

本機は日本国内仕様です。海外ではご使用にならないでください。

取り付けは確実に行う…落ちたりして、ケガの原因となります。

車から離れるときは、電源を切る…本機はオートパワーOFF機能を搭載していますが、使用しないときは電源を切ってください。また、シガープラグコードを接続している場合は、エンジンを止めても、シガーライターソケットに、常時電源が供給される車種がありますので、ご使用にならないときはシガープラグを抜いてください。

シガープラグコード接続時

シガープラグコードを抜くときは、電源コードを引っ張らない…コードに傷がついて、感電やショートによる発火の原因となります。必ずシガープラグを持って抜いてください。

お手入れの際は、シガープラグを抜く…感電の原因となります。

本機を取り付けてのスピード違反に関しては、弊社では一切の責任を負いかねます。日頃からの安全運転をお心がけください。

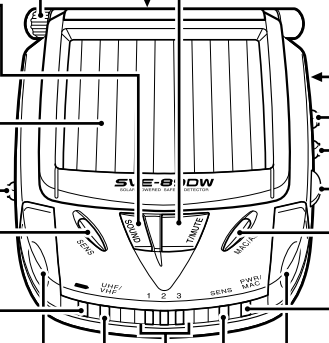
日頃から安全運転をお心がけください

このレーダー探知機は、取締りレーダー波の存在を前もってお知らせする受信機です。レーダー方式以外の赤外線や光電管式、ループコイル式などのスピード測定装置には反応しません。
また、電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車輌通過計測機などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。「いつも鳴るから」と安心せずに注意してください。

※ 探知距離は、走行環境、測定条件などにより変わることがあります。

各部の名称と働き

本体



アンテナ（前面）
取締りレーダー波を受信します。

ソーラープレート固定ネジ
ソーラープレートを固定するときに締めます。

警報音セレクトボタン［SOUND］
警報音の種類が選べます。（11ページ）

ソーラープレート
太陽光からの充電ができます。

UHF/VHFスイッチ［UHF/VHF］
トリプル識別受信機能の設定/解除を選べます。（19ページ）

受信感度セレクトボタン［SENS］
MACシステムを解除しているときは、走行環境や条件に合わせて受信感度が選べます。（12ページ）

バッテリーランプ［▬］
テスト&ミュートボタンが押されている間はバッテリーの残量を表示し、バッテリーが消耗してくると点滅します。（7ページ）

UHF/VHFランプ［UHF/VHF］
350.1MHz、407.7MHz帯および159～160MHz帯の電波を受信したとき、緑色に点滅します。（19ページ）

シグナルメーター［1～3］
受信している取締りレーダー波の強さに応じて、点灯が1から3へ増えていき、3に達すると、すべてが点滅します。（15ページ）

テスト&ミュートボタン［T/MUTE］
警報音、電池残量の確認やミュート機能を使うときに押します。（11、15ページ）

DCジャック［DC12/24V］（12/24V車対応）
付属のシガープラグコードを接続します。（6ページ）

MACレベルスイッチ［MAC LEVEL］
MACシステムの振動の検出感度の調整ができます。（13ページ）

電源スイッチ［PWR］
ONにすると電源が入ります。（11、18ページ）

音量ツマミ［VOL］
警報音の音量調節ができます。（11ページ）

MAC/ASSボタン［MAC/ASS］
MACシステムの設定/解除ができます。
MACシステムをONに設定すると、自動的にASS機能が働きます。（13、18ページ）

パイロットランプ［PWR/MAC］
電源が入ると点滅します。また警報の状態をランプの色で表示します。（11、13、14ページ）

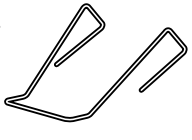
感度ランプ［SENS］
受信感度をランプの色で表示します。（12、14ページ）

アラームランプ
受信している取締りレーダー波の強さに応じて点滅速度が変化します。（15ページ）

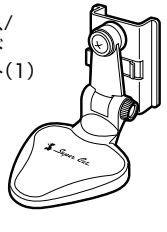
付属品

ご使用前に付属品をお確かめください。

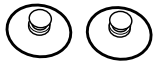
●サンバイザークリップ(1)



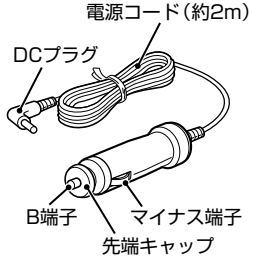
●フロントガラス/ダッシュボード兼用ブラケット(1)



●吸着盤(2)



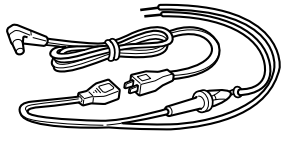
●シガープラグコード(1)



●マジックテープ(1)
●取扱説明書・保証書(1)

別売品のお知らせ

■電源直結コードOP-4（約4m）
1,575円（税込）
シガーライターソケットを使わずに、アクセサリー系端子から直接電源をとることができます。



■交換用ニッケル水素電池
1,575円（税込）
本電池は本機専用です。

ご使用にあたって

まず最初に充電します

初めてご使用になるときは、付属のシガープラグコードを使い、15時間（例1日3時間で5日間）以上、使いながら充電してください。

**本機はソーラー電卓などと違い、ソーラーバッテリーのみでの駆動はできません。
専用の充電池を接続して、初めて正常に動作しますので、必ず接続してください。ソーラーバッテリーは専用の充電池を補充電するためのものです。**

使用上のご注意

■一部の車種に採用されている断熱ガラスは、電波の透過率が低いため、探知距離が短くなることがあります。
■本機は、赤外線や光電管、ループコイル式スピード測定装置には反応しません。

動作温度範囲について

■本機は、−20℃～+85℃まで正常な動作が保証されています。夏、冬とも安心してご使用ください。（充電可能温度範囲は、−5℃～+85℃です。厳寒地でご使用になる場合は、付属のシガープラグコードでご使用ください）

本機は専用のニッケル水素電池を使用しています。この電池は本機専用で、他の機器に使用することはできません。また安全のため専用の電池以外は本機に使用できません。電池を交換する場合は、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。

電源について

※通常は、シガープラグコードを接続せずに使用できます。

ソーラーバッテリーの充電と使用方法

本機はシガーライターソケットからの充電・使用に加え、ソーラープレートによる太陽光からの充電ができます。
初めてご使用になるときは、付属のシガープラグコードを使い、充電しながらご使用ください。
（走行中、駐車中にも太陽光から充電されますが、気象条件、使用環境に左右されないより確実な初期充電を行うことができます）

シガープラグコードで充電する場合、バッテリーアラームが鳴った状態からは、約15時間（例 1日3時間で5日間）でフル充電できます。
電源スイッチのON/OFFに関係なく充電できます。

1度充電したあとは、バッテリーランプが点滅を始めるまで、シガープラグを抜いて、そのままお使いください。

※初期充電を充分に行えば、使用中のバッテリーの消費分は、走行中や駐車中に太陽光からの充電で補充されます。

フル充電したあとは、まったく充電されない状態でも約50時間※（無警報時）の連続使用ができます。

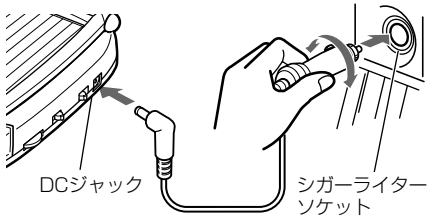
※連続使用時間は、各種機能の設定状態により異なります。（この時間は、UHF/VHF部 OFF時の場合です）

冬期は、日照時間やソーラーバッテリーの性能上、充電しにくくなる場合があります。
バッテリーアラーム機能がひんぱんに働くときは、シガープラグコードを接続した状態での使用をお勧めします。

シガーライターソケットからの充電と使用方法

1 付属のシガープラグコードを、DCジャックと車のシガーライターソケットに差し込む

シガープラグは、2、3回左右にひねりながら差し込みます。



⚠警告

助手席エアバックの妨げとなる場所に配線しないでください。電源コードが妨げとなり、エアバックが正常に動作しなかったり、動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。

- 本機はDC12V/24V（マイナスアース）車対応です。
- シガープラグコードで充電する場合、バッテリーアラームが鳴った状態からは、約15時間でフル充電できます。
- シガープラグコードは、必ず付属のものをご使用ください。
- シガープラグ内部のヒューズが切れた場合は、同じ容量（1A）の新しいヒューズと交換してください。また、交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、使用を中止し、シガープラグを抜いてお買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。
- シガープラグ内部には、ヒューズとスプリングが入っています。ヒューズ交換の際は、部品の紛失に注意し、順序を合わせて入れてください。
- 一部の車種においては、シガープラグの形状が合わないことがあります。その場合は、別売のOP-4を使用してください。（☛4ページ）

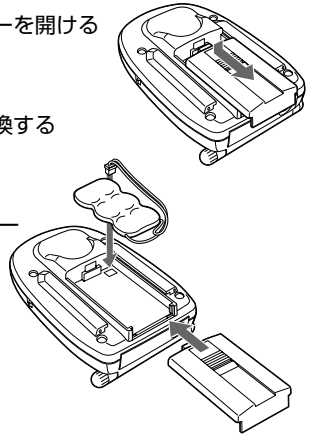
電池交換の方法

専用バッテリーには寿命があります。充電が充分できなくなったら、新しいものと交換してください。（寿命の目安としては、約3〜5年ですが、3年以内でも劣化することがあります。）

1 バッテリーカバーを開ける

2 バッテリーを交換する

3 バッテリーカバーを閉める



- 本機は専用のニッケル水素電池を使用しています。安全のため専用電池以外は使用しないでください。新しいバッテリーについては、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所、サービス部にご相談ください。

●オートパワーON/OFF機能について

アイドリングなどの振動の少ない状態（停車中）や、エンジンを切ったときなど振動のない状態（駐車中）が約3分間以上続くと、自動的に電源が切れます。また、振動を検出すると電源が入ります。

※ 振動や騒音の激しい場所では、わずかな揺れを検出して電源が切れないことがあります。
使用しないときは電源スイッチで電源を切ってください。

※ 走行中でも、低速走行や一時停止など、振動を検出できない状態が約3分間続いた場合にはオートパワーOFF機能が働きます。

バッテリー表示機能について

■ローバッテリー表示について

初期充電不足や太陽光が当たらない条件下での使用が続きバッテリーが消耗してくると、バッテリーランプが点滅し、ローバッテリーアラーム（🔊）ビビビッ ビビビッ…）が鳴り出します。このようなときは充電が必要です。付属のシガープラグコードを使い、充電してください。

バッテリーの状態	バッテリーランプ
バッテリーが消耗し、充電が必要な状態	赤色点滅
バッテリーが消耗し、すぐに充電が必要な状態（動作しなくなります）	赤色点滅 ビビビッ ビビビッ ビビビッ ローバッテリーアラームが鳴ります（約1分間）

- 日中はバッテリーランプの赤色の点滅が見えにくい場合がありますので、ご注意ください。

■バッテリーの残量表示について

シガープラグコードを抜いた状態でテスト&ミュートボタンを押している間、バッテリーの残量を表示します。

バッテリーの状態	バッテリーランプ
残量が充分な状態	緑色点灯
少し消耗した状態	オレンジ色点灯
充電が必要な状態	赤色点灯

- シガープラグコードをDCジャックに差し込んだ状態では、バッテリーの残量表示はしません。
- 電源を入れても、数分間はバッテリー残量を正しく表示できないことがあります。
- 温度が極端に高いところまたは低いところでは、バッテリー残量を正しく表示できないことがあります。

取り付けについて

レーダー波アンテナの前に、カーラジオのガラスアンテナや金属などの障害物がこないように取り付けます。

⚠警告

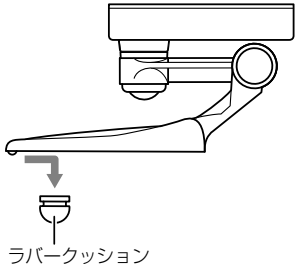
- 自動車の運転や視界の妨げにならない場所に取り付けてください。
  誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

⚠注意

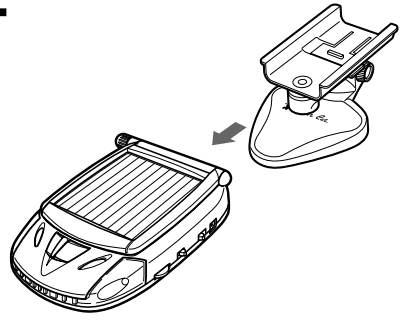
- 取り付けは確実に行ってください。落ちたりして、ケガの原因となります。
- 上下方向の角度を調節するときは、必ず上下方向調節ネジをゆるめてから行ってください。破損の原因となります。

ダッシュボードに取り付ける

1 ブラケットからラバークッションをはずす

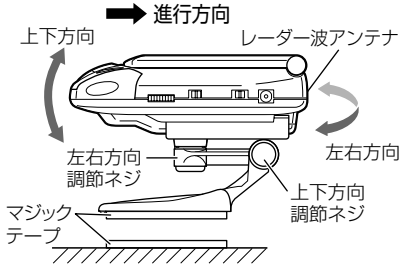


2 本体にブラケットを取り付ける



- 本体側面のミゾにブラケットのツメをしっかりと引っ掛けてください。

2 付属のマジックテープで貼り付け、本体を道路に対して水平に、またアンテナが進行方向(前方)を向くように、角度を調整する



ダッシュボードが平坦でなく、傾斜や凹凸があり、安定しなかったり、固定できない場合は、フロントガラスやサンバイザーへの取り付けをおすすめします。

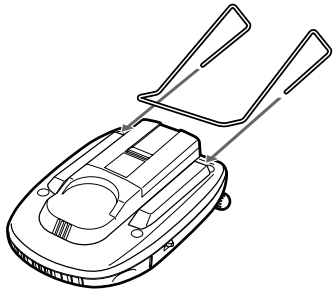
- あらかじめ、貼る場所のチリや汚れ、脂分をよく落としたあと、慎重に行ってください。貼り直しは、テープの接着力を弱めます。
- 使用中、本体が傾くような場合は、ネジの締め付けを行ってください。

⚠警告

- エアバックの上に取り付けないでください。
  万一のとき動作したエアバックで飛ばされ、事故やケガの原因となります。

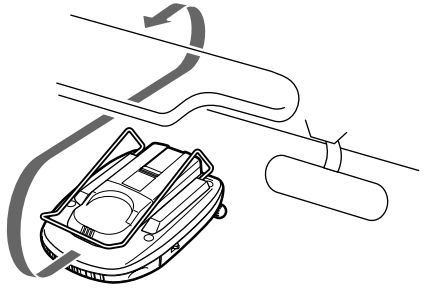
サンバイザーに取り付ける

1 付属のサンバイザークリップを本体に取り付ける



- 本体の底面の穴にしっかりと差し込んでください。

2 助手席側のサンバイザーに挟み込む

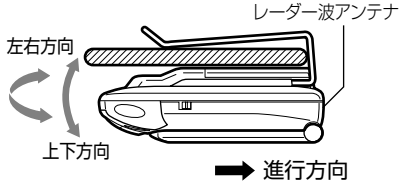


次のような理由で、ソーラープレートに太陽光が充分当たらない場合や、サンバイザーの形状により取り付けができない場合は、フロントガラス下部やダッシュボードへの取り付けをおすすめします。

- フロントガラスの上部がスモークやサンシェード付きのとき
- サンバイザーが奥まった位置のとき
- サンバイザーの形状により、本体が水平にならないとき

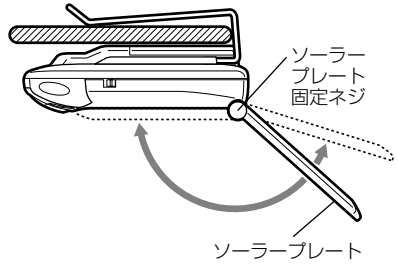
3 取り付け角度を調節する

道路に対して水平に、またアンテナが進行方向を向くようにします。



※ サンバイザーでスピーカー部分を塞がないようにしてください。警報音が聞こえにくくなります。

4 ソーラープレートの角度を調節する



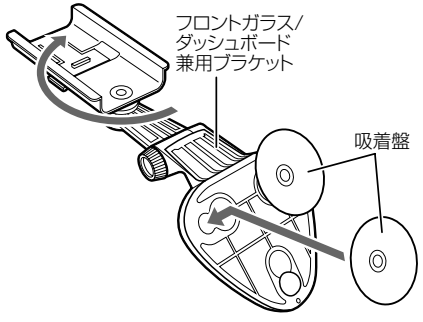
- ソーラープレート固定ネジをゆるめて、太陽光がよく当たるような角度に調節し、しっかりネジを締めてください。

⚠注意

- ソーラープレートの角度を調節するときは、必ずソーラープレート固定ネジをゆるめてから行ってください。破損の原因となります。

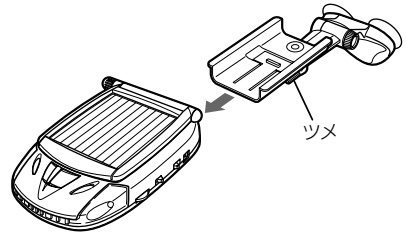
フロントガラスに取り付ける

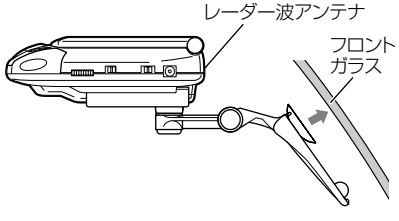
1 フロントガラス/ダッシュボード兼用ブラケットに、吸着盤を取り付ける



2 本体にブラケットを取り付け、フロントガラスに貼り付ける

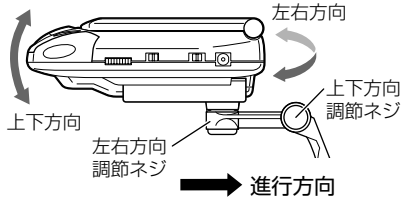
吸着盤(吸着面)に水などをつけて、フロントガラスの中央下部に貼り付けます。



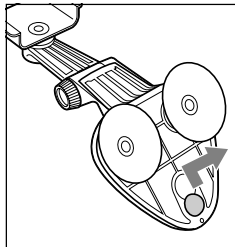


3 取り付け角度を調節する

道路に対して水平に、またアンテナが進行方向を向くようにします。



使用中、本体が傾くような場合は、ネジの締め付けを行ってください。



振動が検出しにくく、よく電源が切れる場合は、ラバークッションをはずしてみてください。

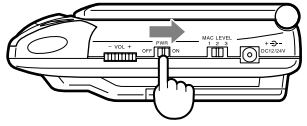
音量/警報音/受信感度を設定する

つづく

設定は、必ず停車中にパーキングブレーキを確実にかけて行ってください。

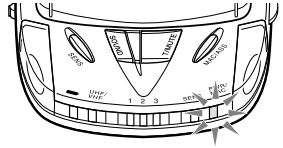
1 電源を入れる

電源スイッチをONにします。



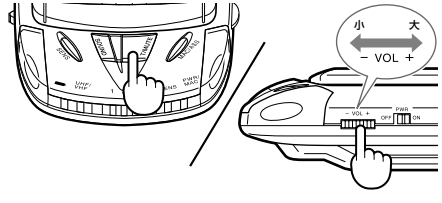
ターン・オン・ビープ(🔊)ピロッピロッ…)が鳴り、パイロットランプが点滅します。

- UHF/VHFスイッチをONにしているときは、『ピロッピロッ』のあとに『ピピピピッ』と鳴ります。(☛19ページ)



2 音量を調節する

テスト&ミュートボタンを押しながら、音量ツマミを回します。

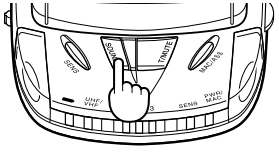


テスト&ミュートボタンを押している間はテストモードとなり、警報音(電子音またはメロディ)を確認することができます。

テスト&ミュートボタンを押す前から警報機能が働く場合は、近くで発信されている取締りレーダー波と同じ電波を受信しているためです。この状態でボタンを押すと、ミュート機能が働き、警報音が止まります。(☛15ページ)

3 警報音を選ぶ

警報音セレクトボタンで切り換えます。



ボタンを押すたびに切り換わります。

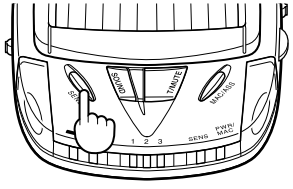
電子音 ⟷ メロディ

選択した警報音は、テスト&ミュートボタンを押すと確認できます。

「メロディ」に設定すると、♪「ミッキーマウスマーチ」のメロディで警報します。

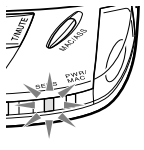
4 受信感度を選ぶ

受信感度を変えるときは、MACシステムがOFF(解除)のときに、受信感度セレクトボタンを押して切り換えます。



MACシステムがON(パイロットランプが赤色または緑色の点滅)の状態では、『ププッ』と鳴り、感度は切り換わりません。MAC/ASSボタンを押して、OFF(パイロットランプがオレンジ色の点滅)の状態にしてください。(☛13ページ)

感度ランプの点滅色はボタンを押すたびに切り換わります。



ハイウェイモード[緑色]
(エクストラ感度)
⬇ ⬆
シティモード[赤色]

受信感度について

受信感度が高いほど、遠くのレーダー波を受信できますが、取締りレーダー波と同じほかの電波も受信してしまいます。
走行環境や条件に合わせて、受信感度をお選びください。
また、受信感度が高いほど、新Hシステム波などの受信には有効となります。

■受信感度の切り換え(マニュアル)

受信感度		走行環境や条件
高い ↑ 低い	ハイウェイ(エクストラ感度)モード	郊外や高速道路
	シティモード	市街地

MACシステムに設定すると、選択した受信感度モードにかかわらずASS機能が働き、走行時間の経過により受信感度がシティモードからスーパー感度、エクストラ感度へと変化します。(☛14ページ)

MACシステムの使いかた

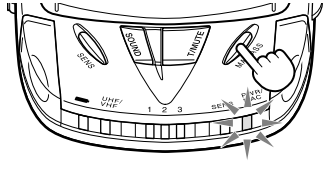
つづく

MACシステムは、内蔵のモーションセンサーが走行中のロードノイズなどの連続的な振動を検出して、走行中か停車中かを判断し、警報を制御します。[MAC/不要警報カット：特許 第3121768号]
MACシステムがOFF(解除)の状態では、レーダー波を受信すると常に警報音が鳴ります。

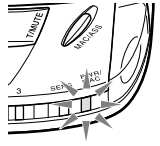
1 アイドリング中に電源をONにする

2 MAC/ASSボタンを押してONにする

パイロットランプが赤色または緑色の点滅の時は、ON(設定)の状態です。
パイロットランプがオレンジ色の点滅のときは、OFF(解除)の状態ですので、MAC/ASSボタンを押してONにします。



MAC/ASSボタンを押すたびに、MACシステムのON/OFFが切り換わります。



ON(設定)
赤色または緑色の点滅
⬇ ⬆
OFF(解除)
オレンジ色の点滅

3 動作を確認する

走行しはじめて、数秒後にパイロットランプが緑色の点滅になり、停車すると、数秒後に赤色の点滅になります。

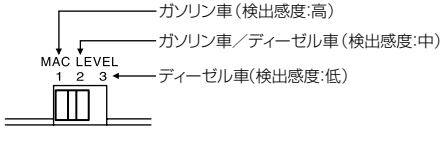
4 調整する

手順3で正しく動作しない場合は、MACレベルスイッチを切り換えてください。

MACレベルスイッチについて

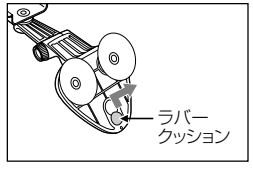
MACシステムは、走行中のロードノイズなどの連続的な振動と、停車中のアイドリングなどによる振動の種類や大きさの差を検出し、動作します。ご使用になる車種や走行状況に合わせてMACレベルスイッチを切り換え、振動の検出感度を設定してください。

■MACレベルスイッチの設定目安



目安として、速度が約30km/hになるまでに、パイロットランプが緑色の点滅になる位置にしてください。
MACの働きによりパイロットランプが赤色に点滅中は警報しません。(取締りレーダー波を受信しません)

- MACレベルスイッチを切り換えても、振動を検出しにくい場合は取り付けかたを変えてください。
フロントガラスに取り付けている場合にくらべダッシュボードに取り付けた方が振動を検出しやすくなります。
また、フロントガラスに取り付けてご使用の場合で、MACレベルスイッチを切り換えても正常に働かない(高速走行中でもパイロットランプが緑色の点滅にならない)ときは、ラバークッションをはずしてみてください。



※またMACレベルスイッチが正しい位置に設定されず振動を検出しにくい場合、オートパワーOFF機能の働きにより走行中に電源が切れることがあります。

MACシステムの使いかた

- 振動が極端に大きな車種や、走行中と停車中の振動に違いの少ない車種では正常に働かないことがあります。そのような車種では、MACシステムを解除してご使用ください。

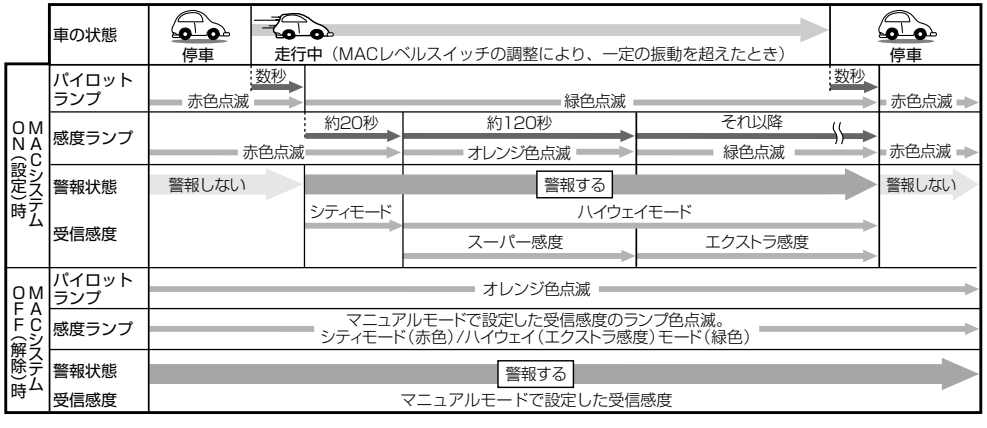
※MACシステムを使用しない場合はMACレベルスイッチは1に設定してください。

- エアコンを使っているときや、カーオーディオなどの音量が高いとき、ワイパーを使用しているとき、エンジンをかけた直後(エンジンが安定するまで)などは、MACシステムが正常に働かないことがあります。
- オートパワーON/OFF機能は、MACシステムの設定/解除にかかわらず動作します。
- MACシステムがON(設定)で、警報をカットしている状態(パイロットランプが赤色の点滅)でも、トリプル識別受信機能は働きます。

ASS機能について

パイロットランプの点滅色と警報動作

MACシステムをON(設定)にすると、低速走行/停車中の不要な警報を抑え、さらにASS機能が働いて走行時間の経過に応じて受信感度が変化します。[特許 第3051676号]



警報中は音による振動を感知し、低速走行や、停車しても警報が続くことがあります。このようなときは、テスト&ミュートボタンを押して、警報をカットしてください。(☛15ページ)

便利な機能について

オートクワイアット/ディマー機能

レーダー波の受信が約30秒以上続くと、自動的に音量が小さくなり、アラームランプやシグナルメーターなどのランプ類も暗くなります。

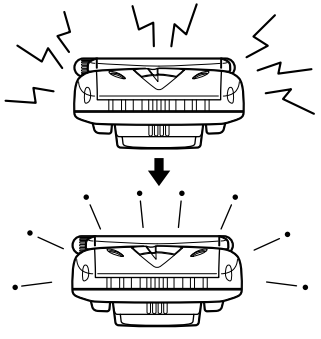
後方受信

iDSPによる超高精度識別およびエクストラ感度の高感度受信により、後方からの取締りレーダー波もシッカリ受信します。

ミュート機能

●取締りレーダー波の発信源の確認ができたら

警報中にテスト&ミュートボタンを押すと、受信中の電波がなくなるまで、警報音を一時的に消すことができます。



ターン・オン・ビープ

電源スイッチを入れたときや、オートパワーON機能により電源が入ったとき、確認音が鳴り、電源が入ったことをお知らせします。

- バッテリーが消耗しているときは、ターン・オン・ビープのあと、しばらくしてからローバッテリーアラームが鳴ります。
- UHF/VHFスイッチをONに設定しているときは、『ピロッピロッ』のあとに『ピピピピッ』と鳴ります。(☛19ページ)

レーダーアラーム機能について

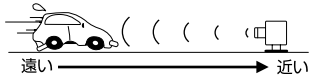
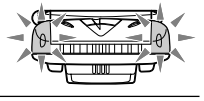
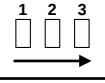
本機は、Wアラーム方式と接近テンポアップシステムの採用により、取締りレーダー波の存在をより確実に伝えていきます。

Wアラーム方式

音(メロディ/電子音)と光(アラームランプ/シグナルメーター)のダブルで警報します。

接近テンポアップシステム

各警報は、取締りレーダー波発信源への接近(電波の強弱)に合わせて変化します。

取締りレーダー波発信源との距離	
電子音アラーム	断続音から連続音に変化します。
アラームランプ	点滅速度が変化します。 
シグナルメーター	左から右へ点灯数が増し、右端へ達したあとに、すべてが点滅します。 

- メロディはテンポアップしません。
- レーダー波の受信が約30秒以上続くと、警報音が小さくなり、ランプ類も暗くなります。(オートクワイアット/ディマー機能)

iDSPについて

本機はiDSP/統合的デジタル信号処理技術(integrated Digital Signal Processing Technology)※により、ステルス型取締り機の「一瞬で強い電波」に対しては、ただ単に警報するだけでなく、通常の警報音とは違うニアミスアラームでお知らせします。**[ステルス識別]**

またカーナビからのGPSのモレ電波など妨害電波は、的確に識別し、誤警報を排除しています。

さらに、温度変化などによる周波数ズレを自動補正しています。**[GPS排除：特許 第3044004号・第3160272号]**

※ iDSPを解除することはできません。
※ iDSPはステルス型の取締り機に対して完全対応というわけではありません。先頭を走行する際はくれぐれもご注意ください。

ステルス型取締り機について

他の取締り機と同じ電波を使用していますが、事前に探知(受信)されないようにするため、待機中は電波を発射せず、必要なときに短時間強い電波を発射して速度の測定ができる狙い撃ち方式の取締り機です。
このため、従来機ではステルス波の識別警報はできませんでした。

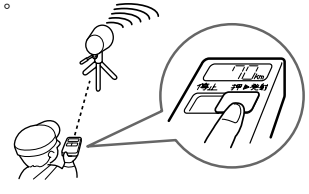
- ステルス型取締り機は、計測する瞬間だけ電波を発射するため、受信できなかったり、警報が間に合わない場合があります。また、取締りにはレーダー波を使用しない光電管式などもありますので、先頭を走行する際はくれぐれもご注意ください。
- 通常のレーダー波を受信した場合でも、周囲の状況などにより、ニアミスアラームでお知らせすることがあります。

＜ステルス波を受信したとき＞

●専用のニアミスアラームでお知らせします。

受信	『ピロピロピロッ…』（ニアミスアラーム）

5秒以上受信が続くと、警報音セレクトボタンで選んでいる通常の警報音に変わって警報します。



新Hシステムについて

電波を用いる自動速度取締り機(オービス)の一種ですが、他のオービスとは種類の異なる電波(周波数は同一)を使用しているため、従来機では探知(受信)しにくくなります。
ただし、このシステムでは証拠の記録をする前に、電光掲示板で「速度オーバー」や「速度超過」などの警告がありますので、これらの警告を見かけたら注意してください。

※ 電光掲示板による警告がない場合もありますので、ご注意ください。

＜新Hシステム波を受信したとき＞

●選んでいる通常の警報音(メロディ、電子音)でお知らせします。

受信	通常の警報音（メロディ、電子音）

GPS排除について

カーナビゲーションの中には、取締りレーダー波と同一周波数帯の電波を漏洩しているものがあります。従来機では、これが原因で警報が鳴りっぱなしになることがありましたが、この電波を安易に排除すると、肝心の取締りレーダー波に反応しないという、相反する問題がありました。
本機では、取締りレーダー波にはしっかり反応するよう、取締りレーダー波や自動ドアの電波とのわずかな違いを的確に識別することにより、GPSの漏洩電波のみを自動排除し、誤警報を防止しています。**(自動識別＆排除設定機能)**
さらに、自動設定後も、一定の間隔で排除設定の内容および温度変化などによる周波数変動の状態を常にチェックし、変化があれば自動的に補正し、誤警報を排除しています。**(自動補正機能)**
[特許 第3044004号・第3160272号]

※ カーナビゲーションからの影響を排除している場合、受信している電波の識別判定がしにくく、ステルス波に対しても通常の警報音となる場合があります。
※ 自動ドアなど、常に電波の出ている場所でエンジンを始動すると、GPSを排除できない場合があります。このようなときは電波の出ていない場所に移動して、再度、本機の電源スイッチを入れ直してください。

一部のカーナビゲーションシステムにおいては、異常発振等によりGPS排除されないものがあります。
あらかじめご了承ください。

主な警報について

本機は取締りレーダー波や各種無線を受信した場合、色々な警報をします。

●取締りレーダー波などを受信した場合			
取締りレーダー波やHシステム波を受信すると…		♪『ミッキーマウスマーチ』 ［メロディモードの時］	☛11ページ
		ピッピッピッ…… ピー…… （電子音）［電子音モードの時］	
ステルス波を受信すると…		ピロピロピロッ……(ニアミスアラーム)	☛16ページ
●各種無線を受信した場合			
デジタル無線を受信すると…		ピピッピッ ピピッピッ……	☛19ページ
取締無線を受信すると…		ピピピピッ ピピピピッ……	
カーロケ無線を受信すると…	〔遠方受信〕	ピッピピッ ピッピピッ……(低い電子音)	
	〔近接受信〕	ピッピピッ ピッピピッ……(高い電子音)	
発信元が遠ざかったと思われる時…	〔圏外通知〕	ピッピピッ ピ〜ピッ	

※ 各種無線を受信したときの警報は、目安としてお考えください。

トリプル識別受信機能の使いかた

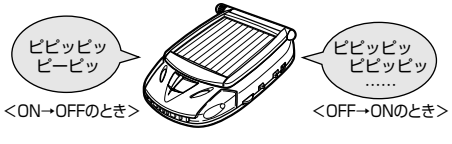
デジタル無線、取締無線、そしてカーロケ無線の3種類の電波を受信すると、それぞれ識別し、鳴り分けてお知らせします。**[トリプル識別受信]**

1 159~160MHz帯デジタル無線受信機能について

デジタル無線とは、各都道府県警察本部と移動端末間で交信するためのもので、移動端末から各都道府県警察本部へ送信する際に、１５９～160MHz帯の周波数が使われていますので、その電波受信により、移動局が近くにいる可能性が高いことを察知できます。
カーロケ帯受信機能と同じように、事前に察知することにより、緊急車輌の通行の妨げにならないようにするなど、安全走行に役立ちます。

《デジタル無線のON/OFFのしかた》
放送局や、無線中継局などが近くにある場合、強い電波の影響や周囲の状況により、デジタル無線の受信状態になることがあります。こんなことがひんぱんに起こる場合、デジタル無線の受信機能だけOFF(切)にすることができます。

① 一旦、電源スイッチをOFFにする。
② MAC/ASSボタンを押したまま、電源スイッチをONにし、確認音(電子音)が聞こえたらボタンをはなす。



<ON→OFFのとき>　<OFF→ONのとき>

※ON⇔OFFが切り換わり、それぞれ設定したモードを確認音(電子音)でお知らせします。

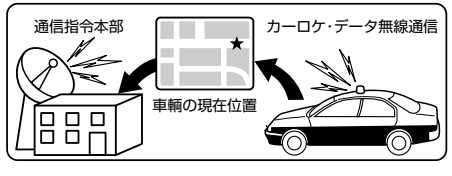
2 350.1MHz取締無線受信機能について

スピード違反の取締りや、シートベルト着用義務違反の取締り現場では、350.1MHzの電波を用いたアナログ方式の無線で連絡が行われることがあります。
350.1MHz取締無線受信機能は、このような取締りに威力を発揮します。

※取締り現場での連絡方法には350.1MHzの電波を用いた無線の他に、有線方式などもあり、受信自体ができない場合もあります。
※カーオーディオやカーナビゲーションなどの影響により、ボイスでお知らせしたり、受信状態になることがあります。あらかじめご了承願います。

3 407.7MHzカーロケ帯受信機能について

カーロケーターシステムとは、「無線自動車動態表示システム」のことで、通信指令本部が移動局(パトカー等)の現在位置をリアルタイムで地図画面上に表示し、把握するシステムです。
カーロケーターシステムを搭載した移動局は、ＧＰＳによる緯度･経度情報をデジタル化し、407.7MHz帯の周波数でデータ伝送していますので、その電波受信により、移動局が近くにいる可能性が高いことを察知できます。
このように、事前に察知することにより、緊急車輌の通行の妨げにならないようにするなど、安全走行に役立ちます。



- カーロケーターシステムは、まだ導入されていない地域やシステムが変更になった地域もあり、すべての移動局に搭載されているとは限りません。また搭載車であっても、使用されていない場合がありますので、カーロケ無線を受信できないことがあります。
- 受信のタイミングによっては、実際の移動局の接近と受信のお知らせがズレる場合があります。

■カーロケ遠近鳴分け＋圏外通知機能［特許出願中］

407.7MHz帯の発信元が遠方か近接しているかを識別し、遠いと思われる時は、『**ピッピピッ …**』という**低い電子音**でお知らせし、近いと思われる時は、『**ピッピピッ …**』と**高い電子音**で鳴り分けてお知らせします。**[カーロケ遠近鳴分け]**
カーロケ遠近識別＋圏外ボイス通知により、ストレスモード⇔リラックスモードのスムーズな切り換えを促し、より快適で安心な運転をアシストします。

更に、電波の受信状況により、発信元が遠ざかったと思われる時は『**ピッピピッ ピ～ピッ**』という電子音でお知らせします。**[圏外通知]**

①遠方受信　**②近接受信**　**③圏外通知**

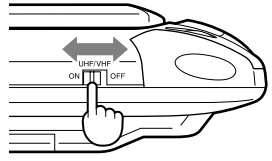
<ストレス・モード>　<リラックス・モード>

※実際には、停車中などで近くにいる場合もありますので、目安としてお考えください。

カーロケ遠近鳴分け＋圏外通知により、ストレスモード⇔リラックスモードのスムーズな切り換えを促し、より快適で安心な運転をアシストします。

1 設定する

UHF/VHFスイッチをONにします。

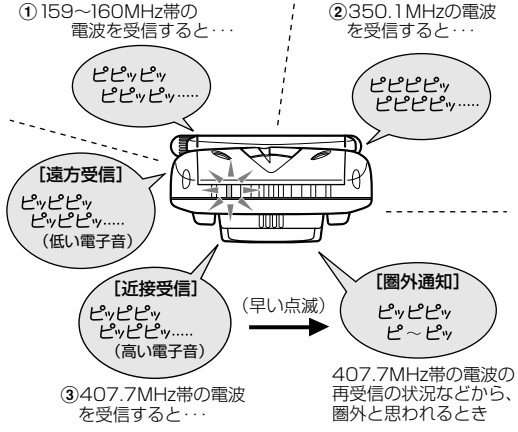


ON
……受信機能「入」

OFF
……受信機能「切」

159～160MHz帯、350.1MHz、407.7MHz帯の電波を受信すると

●UHF/VHFランプが緑色に点滅し、電子音で鳴り分けてお知らせします。



- それぞれの電波を一瞬でも受信すると、アラームが約5秒鳴ります。
- アラームはミュート機能で消すことができます。また約１５秒以上受信が続くと、自動的にミュート機能が働きます。
- アラームが鳴ったあと、30秒以内にもう1度それぞれの電波を受信してもアラームは鳴りません。
- アラームが鳴っているときに取締りレーダー波を受信すると、取締りレーダー波受信時の警報音が優先されます。
- 圏外通知が鳴っても、実際にはカーロケ搭載車が停車中などで、近くにいる場合もありますので、ご了承ください。
- カーロケ近接受信から圏外通知までの間、UHF/VHFランプは速い点滅をします。

使いかた

取締りのミニ知識

本機と、取締りの方法や種類をよくつかんで、上手にご使用ください。制限速度を守り、安全運転を心がけることが大切です。

スピード違反の取締り方法

大きく分けて3つの方法があります。

1. 追走して測定する方法（追尾方式）

指針を固定できるスピードメーターを搭載している白バイやパトカーで、対象の車を追走して速度を測ります。

※本機は取締りレーダー波を発射しているものについては後方受信します。また、カーロケーターシステム搭載車の場合は、カーロケ帯受信機能により、警報することができます。

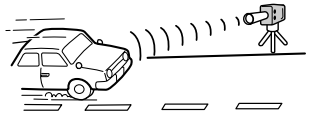
2. 距離と時間で算出する方法（光電管式、ループコイル式）

一定区間を通過するのにかかる時間から速度を算出します。
測定区間の始めと終わりに設置するセンサーには、赤外線や磁気スイッチなどが使われています。

※これらの方式はレーダー波を出しておりませんので、受信および警報することはできません。

3. レーダー波を使って算出する方法（レーダー方式）

電波を対象の車に向けて発射し、その反射波の周波数変化（ドップラー効果）で速度を算出します。



※現在、スピード違反の取締りには、この方法が多く採用されています。この方法は、歴史も古く、種類、台数が多いことから、今後も取締りの主流になると思われます。

取締りレーダー波について

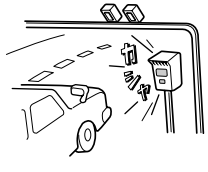
取締りレーダー波は、発射するときの角度や装置の種類によって性質が異なります。

定置式

人が測定装置を道路際に設置して行います。
取締りレーダー波は、直進性が強いため、発射角度が浅いほど、探知しやすくなります。

自動速度取締り機（オービスⅢ）

速度の測定と証拠写真の撮影を自動的に行います。



移動式

測定装置をパトカーに搭載して、移動しながら測定を行います。

●Kバンドについて

Kバンドは、米国ですでに使用されている取締りレーダー波の周波数で、日本国内でも使用される可能性があります。本機は、現在国内で使用されているXバンドに加え、Kバンドも受信できるX・Kツインバンド対応です。

本機はレーダー方式のスピード測定装置に対応します。

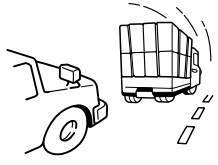
※探知距離は、走行環境、測定条件などにより変わることがあります。

その他

取締りレーダー波を受信しにくい場合

電波の発射方法や周囲の環境、条件などにより、取締りレーダー波を受信しにくいことがあります。

● 前に走行している車（とくに大型車）がある場合や、コーナー、坂道では、レーダー波が遮断され、探知距離が短くなることがあります。スピードの出やすい下り坂では、とくにご注意ください。



［前に走行中の車がある場合］

［コーナー］

［下り坂］

● 対象の車が近くに来るまで、レーダー波を発射しない狙い撃ち的な取締りができるステルス型のスピード測定装置があります。

電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車輌通過計測機などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。『いつも鳴るから』と安心せずに注意してください。

仕 様

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

電源電圧	：	DC 3.6V （専用ニッケル水素電池1.2V×3） DC 12V/24V （シガープラグ入力充電電圧）
消費電流	：	待機時：4mA以下 （UHF/VHF部 OFF時） 最大：50mA以下
受信方式	：	スイープオシレーター式ダブルスーパーヘテロダイン方式
受信周波数	：	［レーダー部］Xバンド/Kバンド ［UHF部］350.1MHz/407.7MHz帯 ［VHF部］159～160MHz帯
動作温度範囲	：	−20℃～+85℃ （UHF/VHF部：−10℃～+60℃） （充電可能温度範囲：−5℃～+85℃）
本体外形寸法	：	71（W）×24（H）×104（D）mm （突起部を除く）
本体重量	：	142g（電池含む）

その他

故障かな？と思ったら

修理をご依頼になる前に、もう1度次のことをご確認ください。それでも異常や故障と思われるときは、お買い上げの販売店、または弊社営業所・サービス部にご相談ください。

電源が入らない	• 電源スイッチがONになっていますか。 • バッテリーが消耗していませんか。シガープラグコードを使って充電してください。 • オートパワーOFF機能が働いていませんか。停車や駐車の状態が約3分以上続くと、自動的に電源が切れます。
充電できない	• 太陽光を充分に当てても充電できないときは、シガープラグコードを使って充電できるか確認してください。 • シガープラグで充電できないときは、シガープラグ内部のヒューズが切れていないか確認してください。切れている場合は、同じ容量(1A)の新しいヒューズと交換してください。
MACシステムやASS機能、オートパワーOFF機能が正常に働かない	• ご使用になる車種に合わせてMACレベルスイッチで振動の検出感度を設定してください。振動が極端に大きな車種や、走行中と停車中の振動に違いの少ない車種では正常に働かないことがあります。そのような車種では、MACシステムを解除してご使用ください。また、振動や騒音の激しい場所に駐車するときは、電源を切ってください。 • 警報中は音による振動を感知し、低速走行や停車しても警報が続くことがあります。こんなとき、警報をカットする場合は、テスト&ミュートボタンを押してください。
反応(警報)しない	• 電源が入っていましたか。パイロットランプの点滅を確認してください。 • 警報機能が正しく働きますか。テスト&ミュートボタンを押して確認してください。 • MACレベルスイッチが正しく設定されていますか。パイロットランプが赤色で点滅していませんか。パイロットランプが赤色で点滅しているときは警報しません。MACレベルスイッチを正しい位置に設定しなおしてください。MACレベルスイッチを切り換えても振動を検出しにくい場合は、取り付けかたを変えてみてください。 • オートパワーOFF機能が働いていませんか。停車や駐車の状態が約3分以上続くと、自動的に電源が切れます。走行中でもオートパワーOFF機能が働く場合は、MACレベルスイッチを設定しなおしてください。MACレベルスイッチを切り換えても振動を検出しにくい場合は、取り付けかたを変えてみてください。 • 取締りレーダー波が発射されていましたか。計測する瞬間だけ電波を発射するステルス型など、取締り準備中あるいは終了後などで、スピード測定装置から取締りレーダー波が発射されていないことがあります。(とくにオービスⅢではよくあります) • 取締りが「レーダー方式」で行われていましたか。
取締りもしていないのに警報機能が働く	• ローバッテリーアラームではありませんか。バッテリーランプが点滅しているときは、シガープラグコードを使って充電してください。 • 取締りレーダー波と同じ電波が他でも使用されています。それらの電波を受信すると警報機能が働くことがありますが、故障ではありませんので、ご了承ください。 ――取締りレーダー波と同じ電波を使用している主な機器―― • 電波式の自動ドア、防犯センサー／信号機の近くに設置されている車輌通過計測機／NTTのマイクロウェーブ通信回線の一部／気象用レーダー、航空レーダーの一部／他のレーダー探知機の一部 • まれに他の無線機の影響を受けることがあります。その場合は取り付け位置を変えてみてください。
警報の途中で警報音が小さくなりランプ類も暗くなる	• レーダー波の受信が約30秒以上が続くと、バッテリーの消耗を抑えるために警報音が小さくなり、ランプ類も暗くなります。
カーナビゲーションの影響を排除できない	• 自動ドアなどの常に電波の出ている場所で電源スイッチをONにした場合、GPSを排除できないことがあります。このようなときは、電波の出ていない場所へ移動して、もう1度本機の電源スイッチを入れ直してください。 • 一部のカーナビゲーションシステムにおいては、異常発振等によりGPS排除されないものがあります。あらかじめご了承ください。
取締り現場なのに350.1MHzを受信しない	• UHF/VHFスイッチをONに設定していましたか。 • 取締り現場での連絡が無線方式で行われていましたか。連絡には350.1MHzの電波を使った無線方式の他に、有線方式の場合もあります。
ひんぱんにトリプル識別受信する	• 放送局や無線中継局などが近くにある場合、強い電波の影響や周囲の状況により、受信状態になることがあります。また、取り付けた車のカーナビ画面、カーオーディオなどから強い電波が放射されている場合があります。

アフターサービスについて

●保証書(裏表紙参照)

保証書は、必ず「販売店・お買い上げ年月日」をご確認のうえ、保証内容をよくお読みになって、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げの日から1年間です。

●対象部分

機器本体(消耗部品を除く)

●修理をご依頼されるとき

「故障かな？と思ったら」で確認しても、なお異常があると思われるときは、使用車名(車種)、機種名(品番)、氏名、住所、電話番号、購入年月日、保証書の有無と故障状況をご連絡ください。

○保証期間中のとき

保証書裏面の「故障内容記入欄」にご記入いただき、お買い上げの販売店まで、保証書とともに、機器本体をご持参ください。保証書の内容にしたがって修理いたします。

○保証期間が過ぎているとき

まず、お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理いたします。

●アフターサービス等についてご不明の点は

お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所、サービス部にお問い合わせください。

ユピテルご相談窓口一覧

ご相談の受付時間は、月曜日～金曜日10：00～18：00です。
ただし土曜日、日曜日、祝祭日、振替休日および年末・年始等は受け付けいたしておりません。
お問い合わせの際は、製品の機種名をご確認のうえ、使用状況もいっしょにご相談ください。

●製品の機能・仕様、取扱方法に関するお問い合わせ

……お客様ご相談センター　TEL. (0564)45-5599

●修理依頼、販売店の紹介に関するお問い合わせ

地　区	名称・電話番号・所在地
北海道	札幌営業所・サービス部　TEL. (011) 618-7071 〒060-0008 北海道札幌市中央区北八条西18丁目35-100 エアリービル1F
青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島	仙台営業所・サービス部　TEL. (022) 284-2501 〒984-0015 宮城県仙台市若林区卸町4-8-6 第2喜和ビル1F
栃木・群馬・茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨・新潟・静岡	東京営業所・サービス部　TEL. (03) 3769-2525 〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33　芝浦新本ビル3F
岐阜・愛知・三重・富山・石川・福井・長野	名古屋営業所・サービス部　TEL. (052) 769-1601 〒453-0092 愛知県名古屋市名東区社台3-181
滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・徳島・香川・愛媛・高知	大阪営業所・サービス部　TEL. (06) 6386-2555 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町53-10
鳥取・島根・岡山・広島・山口	広島営業所・サービス部　TEL. (082) 230-1711 〒733-0001 広島県広島市西区大芝2-9-2
福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄	福岡営業所・サービス部　TEL. (092) 552-5351 〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原3-2-19

• 上記窓口の名称、電話番号、所在地は、都合により変更することがありますのでご了承ください。
• 電話をおかけになる際は、市外番号などをお確かめのうえ、おかけ間違いのないようご注意ください。